

「読書の秋」って、いつから言われているの？

「読書の秋」、「芸術の秋」、「食欲の秋」、「スポーツの秋」という、秋にちなんだ言葉があります。秋は、様々な食材が美味しい旬を迎え、「食欲の秋」は、なんとなく分かりそうです。ではなぜ、「読書の秋」と言われているのでしょうか。今号では、この由来を掘り下げてみましょう。

きっかけは、夏目漱石著「三四郎」

中国の唐時代の詩人で韓愈（かんゆ）「768～824年」は、息子にあてた手紙の中で、「燈火可親（灯火親しむべし）」と読書を薦め、学ぶことの大切さを伝えています。これが日本に伝わり、秋になると涼しく、夜も長くなって灯りをともして読書をするにふさわしいという「読書の秋」のイメージにつながりました。

そのきっかけを作ったのは、明治から大正初期にかけて活躍した文豪・夏目漱石です。小説・「三四郎」（1908年）の中で、この詩を引用したことで、日本でも広まるようになり、「読書の秋」のイメージが定着していったと言われています。

読書の効果を見直そう！

読書にはどんな効果があるのでしょうか。まず、本には、知らない言葉、まだ使ったことがない言葉があります。文章の前後を読むことで、自然に意味を理解することができます。

また、言葉を状況や目的に合わせて適切に使いこなす能力や文章力も向上し、ひいては学力の向上にもつながります。また、今まで知らなかったことを知り、教養や知識を身につけることができます。



自分の好きなこと、興味があることから読書を始めてみてはいかがでしょうか。今は、テレビや、ネットなどでなかなか、本に親しむことが少ないと思いますが、本を開いてみませんか。自分が一番心地よい場所をみつけて、暖かい飲み物と秋の味覚を楽しみながら、本を開いてみましょう。

読書の秋



★10月27日～11月9日は読書週間

文化の日を中心に10月27日から11月9日までは、読書週間です。図書館や書店でさまざまな読書イベントが行われることがあります。新刊の本が多く出版され、読者に楽しみを提供します。

文学的な行事：文学賞や文学フェスティバルなど、文学や読書に関するイベントが秋に盛んに開催されます。みなさんも、新しい知識を得たり、物語の世界に浸ったり、秋は読書の楽しみを追求してみましょう。

《読書週間の標語》

2025年 こころとあたまの、深呼吸

2024年 この一行に逢いにきた

2023年 私のペースで しおりは進む

2022年 本が好き。心がふるえる。

2021年 わたしをみつめる、わたしの本

2025・第79回 読書週間

10/27～11/9

こころとあたまの、
深呼吸。



栄東地区中学校クラブ紹介

栄町中学校 男子バスケットボール部

栄町中学校の男子バスケットボール部は3年生8名、2年生8名、1年生6名の計22名で活動しています。「応援されるチームに・応援したくなるチームに」というスローガンを掲げ日々の活動に励んでいます。活動の中ではコミュニケーションを大切にしており、選手同士で話し合い、互いのプレーを褒め合ったり、プレー修正の提案をしたりしています。初心者から始めても、少しずつ具体的に専門的にコミュニケーションが取れるようチームとして長期的に取り組んでいます。

その取り組みの成果が出て、今年度の中体連大会では全市ベスト8の成績を残すことができました。

バスケットができる環境へ感謝の気持ちを持ち、今後の活動にも精いっぱい取り組んでいきたいと思います。

